②能登半島地震　被災地への支援状況　（ 災害対策現地支援センター ）

北陸地方整備局は、石川県からの要請により、災害対策現地支援センターを3月28日、輪島市に開設した。支援センターでは、災害対策車両の管理運営や被災状況の緊急調査、復旧のための技術的支援等を迅速に行っている。

北陸地方整備局平成19年（2007年）
能登半島地震災害対策支援本部

3月28日　15:00　開設
災害対策現地支援センター
場所：輪島市役所駐車場内

オブザーバー参加

県市合同会議
- 石川県現地災害対策本部
- 輪島市災害対策本部

場所：輪島市役所

＜現地支援センターの体制＞

センター長1名
次長1名、機械担当2名、活動担当3名、運転手3名　計10名

対策本部車

＜支援活動＞

○市道の緊急調査　3月29日～3月31日
：輪島市の市道被災箇所の現地調査

○災害対策用機械の派遣　3月25日～
：照明車、衛星通信車、橋梁点検車、Ku-SAT、災害対策本部車等

○下水道の被害状況調査　3月26日～3月29日
：輪島市門前地区等における下水道被害調査、応急対策検討

○建築物の被害状況等調査　3月28日～3月29日
：輪島市内の建築物被害等調査

○港湾施設の復旧技術支援 3月29日～3月30日
：七尾港、和倉港、穴水港、輪島港の被災箇所の現地調査支援

市道の緊急調査

石川県からの支援要請を受けて、迅速な災害復旧に向けて、被災が特に激しい輪島市門前地区の市道について、被災箇所、被災状況を把握する緊急調査を実施した。

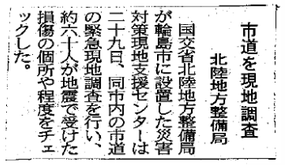
- ●対象道路：輪島市門前地区の市道
- ●調査期間：3月29日～3月31日（3日間）
  【現地調査：29日12:30～30日15:30、結果整理：～31日13:30】
- ●現地拠点：国民宿舎「輪島荘」
- ●構成関係機関：北陸地方整備局、（社）建設弘済会、（社）建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ協会北陸支部
- ●支援要員：3日間の調査期間中、延べ151人の調査要員を投入
  【11班体制でスタートし、30日には３班増班し14班に補充】
- ●資機材　：情報連絡【災害対策本部車（１台）、衛星通信車（１台）】
  現地記録用機材【デジタルカメラ、ポール、巻き尺など】
  結果整理機材【パソコン（１３台）、プリンター（３台）】
- ●調査結果概要：災害調査箇所は269箇所、被災延長は約1.6km

29日12:30緊急調査開始

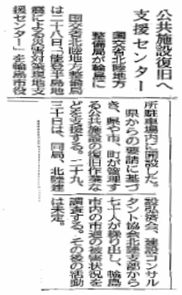
現地調査の状況

輪島荘で下調べの状況

H19年3月30日
北國新聞（朝刊）40面


市道を現地調査
北陸地方整備局
国交省北陸地方整備局が輪島市に設置した災害対策現地支援センターは二十九日、同市内の市道の緊急現地調査を行い、約六十人が地震で受けた損傷の個所や程度をチェックした。

H19年3月29日
北陸中日新聞（朝刊）18面


公共施設復旧へ
支援センター
国交省北陸地方整備局が輪島市に設置した災害対策現地支援センターは二十九日、同市内の市道の緊急現地調査を行い、約六十人が地震で受けた損傷の個所や程度をチェックした。
所駐車場内に開かれた。県からの要請に応じ、輪島市、町が復旧工事などを支援する。二十九日は二十八日に続き輪島市内の市道の被災状況を調査する。その後の活動は二十九日、同局、北陸建（社）建設コンサルタント協会北陸支部から七十人が駆け出し、輪島市、町、県、北陸建（社）建設コンサルタント協会北陸支部の三十人は、同局、北陸建（社）建設コンサルタント協会北陸支部の「現地支援センター」を輪島市役

31日13:30輪島市長に調査結果引継ぎ